

AV MATERIAL

ニュースクリップ & 映像教材

文部科学省情報

■デジタルな形態を含む教科書の使用が可能に

令和8年6月10日、第221回国会参議院本会議において、紙とデジタルそれぞれの良さを生かした教科書づくりを可能とする「学校教育法等の一部を改正する法律案」の採決が行われ、可決、成立した。

<問い合わせ先>文部科学省初等中等教育局教科書課 TEL 03-6734-2576

AV情報

■「こども映画館 2026年の夏休み★」開催

国立映画アーカイブは、映画鑑賞を通し、豊かな情操と高い映像理解能力（リテラシー）を育むことなどを目的に標記イベントを開催する。

<日時>令和8年7月24日（金）、25日（土）、31日（金）、8月1日（土）各日14:00～

<会場>国立映画アーカイブ小ホール（東京都中央区京橋3-7-6）

<内容>研究員による解説と映画上映。上映作品は、「バベルの本」、「ちんころ^{ペーペ}平平 玉手箱」、「てんまのとらやん」、「プッシュ」、「雪の女王 THE SNOW QUEEN」、「ゴジラ」、活弁・生演奏付「キートン将軍」・「明日天気になあれ」など。映画にちなんだプレゼント（視覚玩具ソーマトロップキットほか）なども用意。中学生以下無料。一般520円、高校生・大学生・65歳以上310円。要事前申込。定員に達し次第締切。

<問い合わせ先>国立映画アーカイブ こども映画館担当 TEL 03-3561-0823

研究会情報

■第31回NIE（Newspaper in Education）全国大会広島大会

日本新聞協会主催により、「ニュースとであう社会とつながる～『自分』を育てるNIE」をスローガンに標記大会が開催される。

<日程>令和8年7月30日（木）・31日（金）

<会場>広島国際会議場（広島市中区中島町1-5）

<内容>記念講演、パネル討議、分科会等。

<問い合わせ先>大会実行委員会事務局 中国新聞社内 TEL 082-236-2142（平日10:00～17:00）

■第19回全国高等学校情報教育研究会全国大会（神奈川大会）

全国高等学校情報教育研究会では、「今、改めて情報教育の本質を考える～情報科の力の結集～」をテーマに標記大会を開催する。

<日時>令和8年8月7日（金）12:30～17:00、8日（土）9:00～16:15

<会場>神奈川大学横浜キャンパス（横浜市神奈川区六角橋3-27-1）

<対象>小中高等学校情報教育関係者、情報教育に関わる研究者および学生、企業関係者等。

<内容>基調講演、講演、分科会、ポスターセッション、企業展示等。参加費無料（資料代2,200円）。

<問い合わせ先>第19回全国高等学校情報教育研究会全国大会（神奈川大会）事務局
神奈川県立横浜国際高等学校 鎌田

MAIL info-19kanagawa あっと zenkojoken.jp

※あっとを@に置換。

■第36回全国大会「夏の探究フォーラム2026」

生活科教育研究会では、「育ち合う生活・総合の授業の創造―主体性と協働が生まれる学びとは―」をテーマに標記フォーラムを開催する。

＜日時＞令和8年8月8日（土）10:00～16:00、9日（日）10:00～12:00

＜会場＞東京都新宿区立落合第三小学校（東京都新宿区西落合1-12-20）

＜内容＞基調提案と講演、みんなで語り合おう（実践発表）、シンポジウム。要事前申込。Zoom参加可能。参加費は、会員2,000円、一般3,000円。

＜問い合わせ先＞生活科教育研究会事務局

酒井 MAIL seikyouden@gmail.com

各地の情報

■第66回放送教育研究会東北大会青森大会

東北地方放送教育研究協議会、青森県視聴覚教育研究協議会、NHK青森放送局主催により、「令和時代の学びを加速させるメディア・視聴覚教育の在り方とは？」をテーマに標記大会がオンラインで開催される。

＜日時＞令和8年8月7日（金）10:00～14:45

＜内容＞プレゼンテーション、部会別分科会等。

＜問い合わせ先＞青森県視聴覚教育研究協議会事務局（青森市立浦町中学校）本間

TEL 017-774-2231

■「福島からデジタル時代の学びの変革」

「福島からデジタル時代の学びの変革」運営委員会主催により、教育DXによる探究的な学びへの変革に関する情報共有を目的とした標記イベントが開催される。

＜日時＞令和8年7月21日（火）9:30～17:30

＜会場＞コラッセふくしま（福島県福島市三河南町1-20）

＜対象＞学校教職員、学校関係者、本イベントに関心のある方。

＜内容＞基調講演、特別講演、実践事例紹介、パネルディスカッション等。参加費無料。要事前申込。先着400名。

＜問い合わせ先＞（株）エフコム ビジネスイノベーション本部文教イノベーション部

MAIL f-education@f-com.co.jp

■第11回関西教育ICT展

「教育の未来を創るDXのちから」をテーマに、（一社）日本教育情報化振興会他主催による標記展示会が開催される。

＜日時＞令和8年7月30日（木）、31日（金）10:00～17:00

＜会場＞インテックス大阪（大阪市住之江区南港北1-5-102）

＜内容＞特別企画「文部科学省×教育委員会特別意見交換会」（オンライン開催）、大阪教育大学主催指導主事向け研修会、セミナー、パネルディスカッション等。要事前申込。

＜問い合わせ先＞関西教育ICT展事務局（株）テレビ大阪エクスプロ TEL 06-6944-9918

文部科学省選定作品

■5月選定 紙 紙しばい D DVD

特選「長板中形一松原伸生のわざー」D38分＜中学校、美術／高等学校、芸術（美術、工芸）／社会教育（中学校生徒・高等学校生徒）・青年・成人、教養・情操（伝統工芸）＞（株）桜映画社

「てんぐのはなはな」紙12枚＜幼稚園／小学校低学年／幼児・社会教育（小学校児童）、教養＞（株）童心社

「感染症とヘルスニューメラシー」D21分＜高等学校、保健体育／社会教育（高等学校生徒）・青年、健康・スポーツ（保健・衛生）＞（株）放送映画製作所東京支社

「原爆資料館 語り継ぐものたち」D101分＜一般非劇映画、小学校児童・中学校生徒・高等学校生徒・青年・成人・家庭＞（同）きろくびと

映像作品等選定一覧の詳細は、下記を参照のこと。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/movie/

※本欄掲載のイベント開催等の最新情報は、主催者＜問い合わせ先＞に、ご確認ください。

訃報

（一財）日本視聴覚教育協会前常務理事・現顧問の岡部守男氏が、去る6月6日ご逝去された。享年87歳。

全国ICT教育首長サミット・総会を開催 全国より300名が参加



写真1・参加自治体代表と登壇者

令和8年6月5日（金）、東京ファッションタウンビル（東京都江東区）で開催された、「NEW EDUCATION EXPO 2026 TOKYO」の会場において、全国ICT教育首長協議会主催による「全国ICT教育首長サミット」及び「総会」が、20自治体の首長（代理を含む）と参加者300名を得て開催された（写真1）。

本協議会は、現在119自治体の首長から賛同を得て、未来の子供たちのためにICT教育を推進するための活動を行っている。

「全国ICT教育首長サミット」（写真2）は、全国ICT教育首長協議会 内山慶治会長と日本ICT教育アワード大久保昇審査委員長の挨拶に続き、文部科学省 浅原寛子初等中等教育局参事官（デ

ジタル学習基盤担当）から「GIGAスクール構想の現状と課題」の講演があった。

続いて、「GIGA第二期における先進的ICT教育～自治体トップの立場から～」と題したシンポジウムでは、自治体による実践発表や意見交流が行われた（写真3）。

○令和8年度 全国ICT教育首長協議会「総会」

サミット終了後、令和8年度の総会が開催され、今年度の事業計画において、「全国ICT教育首長サミット」（令和9年2月10日、東京都立産業貿易センター台東館）の開催、第9回日本ICT教育アワード、首長が語るオンライン研修会などの計画が決まった。



写真2・会場の様子



写真3・シンポジウムの様子



国立映画アーカイブ コンテンツ紹介8

「映画遺産－国立映画アーカイブ映画資料ポータル」(1)

国立映画アーカイブ任期付研究員

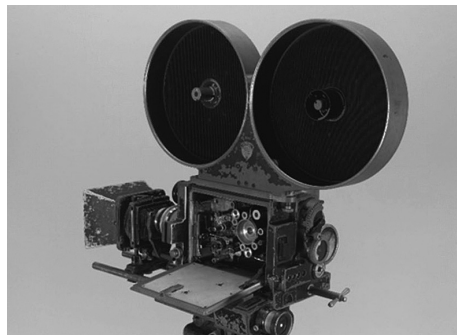
宮 本 法 明

国立映画アーカイブは、2023年5月に国立アトリサーチセンター協力の下、国立情報学研究所と共同でウェブサイト「映画遺産－国立映画アーカイブ映画資料ポータル」(<https://nfajfilmheritage.jp>)を開設した。このサイトは、本誌2026年4月号で紹介した国立映画アーカイブHP内の「NFAJデジタル展示室」(<https://www.nfaj.go.jp/online-service/digital-gallery>)とは異なり、当館が所蔵する映画資料を包括的に公開することを目的としている。

サイト開設時には、歴史的な映画機材181点（撮影機116点／映写機65点）を公開した。当館の常設展「NFAJコレクションでみる日本映画の歴史」にも、映画に関するさまざまな機材が展示されているが、映画機材コレクションの大半は相模原分館の収蔵庫に収められており、以前はそれらを館外に向けて公開することがあまりできずにいた。

デジタル・アーカイブは大きく重たい映画機材を公開するのにうってつけの手段であり、「映画遺産」開設時の公開資料に選ばれることになった。もちろん実物の資料を展示することも重要だが、映画機材の場合はさまざまな角度から撮影することで、可動部の仕組みや内部機構などの実物展示でもみせることの難しい部分まで公開することができる（写真）。また、小型映画研究者の故・飯田定信氏の調査に基づく詳細なテクニカル・データを掲載しており、「映画遺産」は国内で類を見ない映画資料のデータベースとなっている。

2025年12月には、重要度の高い所蔵品を多く含む44点（撮影機11点／映写機33点）を追加し、個人用の8mmフィルム撮影機「シネコダック マガジン 8」から70mmフィルムをドーム状のスクリーンに映写できる「オムニマッ



写真・劇場用35mmフィルム撮影機のスタンダード「ミッチェルNC型撮影機」の内部機構

クス映写機」まで、現在では計225点の映画機材が公開されている。あらゆる人や物の動きを静止画に還元する撮影機と、膨大な数の静止画に再び命を吹き込む映写機という20世紀テクノロジーの粋を尽くした歴史的マシーナリーの数々を、本サイトにてご覧いただきたい。

昨今では、スマートフォンで撮影された映画が劇場公開される例もあり、デジタル・ネイティブの子供たちは映画をインターネット配信でみるが多くなっているが、「映画遺産」はフィルムで撮影されていた時代の映画が、どのような撮影機を使って製作され、どのような映写機によって上映されていたのかを学ぶ格好の教材になるだろう。

このサイトには、映画機材以外にも映画館プログラムや映画館チラシ、ポスターなどのさまざまな資料コレクションが掲載されており、次回はそれら紙の資料について紹介する。



映画遺産－国立映画アーカイブ
映画資料ポータル